

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190104279		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部ラシックグループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市北一色10丁目38-1		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和6年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2190104279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2190104279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人理念「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」に基づき、ご利用者様の時間を無駄にせず、大切に過ごして頂く為、生活リハビリ(ADL、IADL)を中心に行っており施設周りや施設内を散歩したりしています。また、職員の認知症ケア研修にも力を入れており、ご利用者様の気持ちに寄り添い、残存能力の維持にも力を入れています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の玄関を入るとホテルのロビーのような雰囲気である。正面中庭には水と植栽をあしらい、脇の小さな和室には金襴緞子の打掛を飾り、こだわりのある造りとなっている。管理者は、職員が介護について、どこまで理解できているかを自分でチェックできるよう、介護理解レポートを作成しており、職員個々の意欲の向上に繋げている。また、動画研修も取り入れ、自由な時間に受講をしながらステップアップに努め、利用者のケアに活かしている。入居時に寝たきり状態であった利用者が積極的にリハビリに取り組み、歩けるようになった事例もあり、日々、利用者一人ひとりに寄り添ったケアを実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が法人理念を念頭に置いて少しでも利用者様の人生史を傾聴するように努めている。	法人理念「ゲストに満足と笑顔、地域に安心と輝きを」とし、毎日、朝礼で唱和し、意識付けをしている。介護はサービス業であり、おもてなしの心をもって介護にあたることを基本とし、利用者をゲスト様と呼ぶなど、常に丁寧な言葉遣いで接するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時や退勤時、ご近所の方とすれ違う時には挨拶をかわしている。感染予防により地域交流は少ない。専門学校の施設研修が増え外部との、交流機会が増えた。(岐阜衛生専門学校・東海学園)	自治会に加入し地域の一員として、職員が清掃活動に参加している。春祭りには子供神輿が事業所に立ち寄り、近隣の専門学校研修生を受け入れ交流している。コロナ禍で自粛していた音楽鑑賞会には、住民に参加呼びかけを行う予定としている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にご利用者様ご本人やご家族様が参加されている。感染予防のため今年度は、会議の開催はしていない。	運営推進会議には地域包括支援センター職員や地元の民生委員参加を得て意見交換し、運営に活かしている。コロナ禍以降、市職員の参加がない。活動報告などはしているが、今後、積極的に参加依頼をしていくとしている。	行政をはじめ、自治会や家族に運営推進会議への参加を依頼したり、事業所主催のイベント等には、地域住民にも積極的に参加を呼びかけるなど、事業所への理解を深められるような工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、事業で行われた実績等常に報告している。市役所の職員は不参加が多い。感染対策にてメールでの情報交換が主となっている。	市担当者から、研修案内がメールで届いている。運営に関する不明な点は電話やメールで回答を貰っている。サービスの充実を図る為、情報公開の調査を自ら希望した。また、生活支援ハウスの取組みとして、現在、身寄りのない困窮者を2名受け入れている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様の動きに制限を設ける事は認知症の進行に繋がる事を認識し、家庭的な環境の中で見守りが出来ている。中庭、南庭には、センサーが設置されているため、自由な行動に対し、対応出来ている。	身体拘束適正化委員会は3か月ごとに開催し、事例をもとに話し合っている。また、参加出来ない職員には、書面にて周知を行い、全員が拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。今後は、資料の確認漏れのないよう、確認印の欄を設けるとしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全を確認しつつ、自由な暮らしを支援する工夫をしている。研修会に参加し虐待防止を学び、言葉かけにも職員間で注意を図っている。	虐待防止委員会も開催し、利用者の状態について細かく検討しながら、それぞれの心情を正しく理解、虐待をしないケアに努めている。職員の手厚い取組みにより、食が細く、車いすの利用者が歩けるようにまで回復した事例があり、職員の自信に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安全を確認しつつ、自由な暮らしを支援する工夫をしている。権利擁護については、管理者が対応しているが、初期的な窓口の相談は、担当職員が主として接している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、契約書と重要事項説明書に沿って十分な説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ定期連絡を行い、ご家族との相談をおこなっている。計画書の作成に役立てている。	電話や毎月のホームだよりにて、利用者の近況を家族に報告し、意見を聞くようにしている。面会はロビーで行い、他の利用者と重ならないようにしている。事業所独自で家族からアンケートを取り、要望等も聴いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、カンファレンス会議、又、必要に応じ、リーダー会議、全体会議を設け意見交換をしている。随時、意見、報告や提案できるようにしている。連絡書の発行。朝礼での申し送り等、常に情報の共有・意見交換が出来る体制になっている。	管理者は、定期的に職員との個別面談を行っている。個々の意見を聞く中で、認知症の対応について、介護の質の統一化を図りたいと提案があり、フロアミーティングを増やして情報の共有をしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	面談の時間を作り、適切なアドバイス・助言随時行い、相談をしている。	職員の休憩場所が確保されており、ノーコンタクトでゆっくりと寛ぐことができる。休憩時間もしっかり取ることが出来ている。有給休暇も早めに申告し、希望の日の取得ができる体制が整っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や日々の申し送りで各自、その日に連絡、報告し、迅速に解決している。研修会へも、必要性、要望があれば出向いている。法人が率先して研修をおこなっている。	法定研修は全員が取得している。その他にも、動画研修を導入し職員の自由な時間に参加ができ、個々に自己啓発に努めている。資格取得補助金があり、合格者には手当を支給するなど、職員の意識向上を図っている。新人教育及びアフターフォローも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域連携の一環として会議・講習会の参加を行っている。また地域ケアとして、他施設への紹介もおこなっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事・掃除など日常生活、特に家事を中心に「共に過ごして助け合う」事を重要としている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が一人ひとりの思いや希望について関心を持ち、情報を共有している。入浴時間や食事場所等、ご本人様と相談を行いケアにつなげている。サービス担当者会議にもご本人様が参加し、思いをお話して頂いている。	入浴や排泄介助などの個別支援時には、利用者が自発的に思いを話してくれる事も多く、それを業務日誌に記録している。サービス担当者会議の際に、職員間で情報を共有し、統一したケアに努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来館時等の要望やゲストの気持ちを毎月のサービス担当者会議や計画作成に活かしている。またモニタリングを行い、新たな計画へ展開できるよう努めている。	利用者の生活歴や入居時のフェースシート情報を基に介護計画を作成している。更新時や計画の見直しの際には、家族に説明し了解を得るようにしている。介護計画は、一人ひとりに寄りそった計画作りがされており、実際に状態が良くなった家族からは喜びの声が聞かれた。	介護計画については、入居時は家族と話し合いがあったが、以降は説明のみになっている。今後は、家族も交えて意向を聞きながら作成するような体制作りに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ゲスト様の様子や過ごし方を記録して、身近に支えるスタッフがわかる事実や気づきを記録に残している。毎月担当職員がモニタリング記録して介護計画に活かしている。	利用者の健康状態はタブレットにて記録し、介護記録は手書きで行っている。勤務時間前に、その記録に目を通し情報共有をしている。ケアプランは常に確認できるようファイルに綴じてあり、連動したケアが提供されている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゲスト様やご家族様の要望にあわせて歯科往診の手配、主治医へゲスト様体調変化が見られた場合情報を送り対応の相談指示を仰ぎ対応している。	就寝時刻は、利用者に任せてあり、各自が好きな時間に就寝している。利用者に急な体調変化があった場合、職員が適切に受診支援を行っている。近隣住民の介護に関する相談も受け入れている。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニ、ドライブに出かけたり、コミュニティセンターを活用している。感染対策にて自粛している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活の様子を記録し、往診日の事前に連絡している。ご家族様の希望で、ご家族様がお連れして、かかりつけ医の受診をして頂いております。	入居時に、以前からのかかりつけ医の受診継続ができることを説明している。協力医は月2回の往診があり、従前のかかりつけ医への受診は家族の付き添いを基本としている。歯科衛生士が毎週、口腔ケアを行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携をしている各主治医の紹介の病院に受け入れて頂いている。入院先のソーシャルワーカーと連携し状況・状態の把握に努めている。	認知症の患者にとっては、入院はダメージが大きい場合が多い。骨折などの場合は、事業所でもリハビリができることを説明し、出来る限り早期退院できるよう医療機関との協働に努めている。退院カンファレンスには、管理者が看護師と一緒に参加している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期の考え方を理解し、ゲスト様・ご家族様と共有している。ADLの低下が見られ始める毎に御家族と相談し、理解を得ながら、提携医・訪問看護師との連携をしてターミナルケアを行う。ユニット内でも研修を行う。	医療エリアを作り、看取り・終末期の対応ができるよう研修を実施し、職員全員が終末期のケアができるよう取り組んでいる。利用者・家族の意向に沿って方針を決め、安心と納得のいく終末期を迎えられるよう、随時、本人・家族の意思確認をしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを元に、全体会議にて新人スタッフへ周知徹底している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、災害時に備えている。非常時の食料や飲料水は備蓄しており、定期的に確認。運営推進会同時開催時には地域の代表者に参加いただく。災害時連絡先には地域にも自動で入るよう協力を得ている。	年2回、事業所独自の災害訓練を行っている。地域の訓練にも職員が参加している。1分で到着できる消防署から、緊急時には事業所のルーフバルコニーで待機するよう指示を受けている。ハザードマップも確認し水害にも対応できる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲスト様の既往歴を把握し、言葉かけを大切にしている。誇りやプライバシーについても尊厳を持った接し方に心掛けている。	法人の方針で、利用者を「ゲスト様」と呼び、特に丁寧な言葉遣いで対応するよう努めている。職員は、接遇研修で学び、全職員に伝達を行なっている。利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努め、浴室やトイレ等での介助の際には、プライバシーの確保に気を配っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや疑問形で声かけをしている。表情や動きから思いを察し、自己決定ができるよう働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲスト様の要望をお聞きし、予定を一緒に立てている。管理者やケアマネは定期的に現場に入り、ゲスト様が望んでいる支援が来ているかリーダーと共に考えている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合った食事が出来るようにメニューの確認、準備、食事、後片付け等と一緒にやっている。行事や祭日には旬の食材を取り入れたメニューで提供し、お誕生日には食べたい物をお出ししている。	食事は利用者の希望も取り入れながら、3食とも利用者と一緒に手作りしている。月に1度はイベント食の提供で、変化を付けるようにしている。今年のお正月は、TVで得た情報で豆腐餅を作り、大変好評を得た。家族との外食も可能とし、気分転換が図られている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500～1800cc 野菜を多くしたバランスの取れたメニューを作成している。たんぱく質を重視し、血液検査の結果を基に思案している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。希望されるゲスト様には歯科衛生士により口腔内の確認を1週間に一度してもらいご本人様に合った介助を行っている。	職員は、食べること、噛むことは認知症の予防になることを認識しており、利用者の口腔ケアに力を入れている。利用者は、毎食後の歯磨きを職員と共にしない、歯科衛生士が毎週、口腔内の確認をしている。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表などから排泄パターンを読みとり、排泄管理を行う。前もつての声かけや誘導で日中は布パンツを使用する方が増えている。夜間も声かけや誘導で紙パンツから布パンツに移行している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく利用者の希望に応じた時間を提供し、異性入浴介護を拒否される方は同性介護を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握しご自身のペースで休んで頂くよう支援を行っている。夜間寝れない時は声掛けをし、安心するまで傾聴し入眠の手助けに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにカルテに薬情を挟んでいる。毎日の服薬確認印も行い職員間でダブルチェックを行い飲み忘れのないケアを行っている。	薬は鍵のかかる場所で職員が管理している。医師から薬変更の連絡があった場合には、全員が把握できるようにしている。以前、誤薬ミスが続いたことがあり、服薬時には必ず2名で声出し確認、確認印で誤薬、飲み忘れがないよう徹底している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸など趣味がある方は好きな時間に好きな場所でやりやいことを行っている。毎日歌や体操、散歩などで気分転換、楽しみを見つけている。	刺繍の好きな利用者や正月の書初めなど、各自の趣味が活かせるよう支援している。また、食事の片付けやおしぼり畳みを担当するなど、自分が必要とされていると実感できるよう、職員が利用者を支え、生きがいに繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は制限をかけているが施設周りの散歩は人との接触が少ない為行っている。	正月は自宅に帰り、家族とのひと時を過ごす利用者や孫の成人式を見ることができた利用者もある。家族との面会は30分ではあるが、自由に受け入れている。また、顔なじみの友人の急な面会にも適宜対応している。	

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐ為お金の持ち込み、預かりは行っていません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者も見え、家族や知人に連絡を取れる環境にあります。施設の電話を使い、家族等とお話される方もいます。施設に手紙が届くのでその都度手紙をお渡ししています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにオゾン発生装置を設置しており、ウイルスの感染予防対策を行っている。照明についてもサーカディアン照明を採用し、体内リズムを整え、質の高い睡眠と日常を保って頂いている。	事務所や食堂は、すべてオープンになっており、職員は利用者の変化にもすぐ対応できる。廊下も広く、室内での運動もできる。トイレ、浴室も広く、すべてバリアフリー設計で転倒防止に努めている。施設内はサーカディアン照明で体内リズムが整えられている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然が見渡せ、気の合った利用者同士が過ごせる場所があり、マッサージ機も設置してある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、洗面台、ベッド等設置している。本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や洋服等をなるべく持ち込んで頂き、1人1人に合った好みの空間を作っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で行けるように廊下に手すりがついており、場所が分かるようにトイレにはトイレマーク、各居室のドアには名前が貼ってある。		